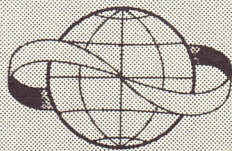


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第23号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
 東京都東村山市久米川町1-16-18
 Tel&Fax 042-395-9788

家電リサイクル法を

検証する！

「特定家庭用機器再商品化法―家電リサイクル法―」は、昨年四月より施行されて一年経過した。家庭から排出されるエアコン・テレビ(ブラウン管式)・電気冷蔵庫・電気洗濯機の四品目に限定して、①家電メーカー(輸入業者含む)にリサイクルの義務を、②小売業者に収集運搬の義務を、③排出者にリサイクルと収集運搬のコスト負担を定めてスタートした。排出者が負担する料金は、一台当り二四〇〇円〜四六〇〇円と、引取料が加算されることになった。家電四品は全国に約三億台普及していて、年間一八〇〇万台(六十万トン)排出すると予測されている。初年度は約五十%の九〇〇万台近くが本法で処理されたようだ。尚この法律が施行されるに当り、家電業界は、松下・東芝を中心としたAグループと、日立・三菱を中心としたBグループに分かれ、Aグループは既存の業者を使って処理し、Bグループは自前の処理工場を建設してスタートした。

先日、『東京エコリサイクル株式会社』を見学した。(四頁参照)

日立などBグループメーカーが出資した会社で、若洲海浜公園の隣接地に建設した建坪参千平方メートルの処理工場だった。

昨年度はこの工場で、二七万台を処分し、有価物として処理したりリサイクル率は七十%に達したとのことだった。

工場内の作業の殆どは、五十名ほどの従業員が一台々々人手で分解し部品ごとに分ける手作業だった。外側のガラとプラスチック類を粉碎し、磁石で鉄くずを選分する部分だけが機械処理であった。

程度の良い物や部品などを再使用(リユース)または輸出することは絶対にならない、そしてBグループ以外のものは処理しないなど、出資会社の製品販売をスムーズにするための事業に徹していることを痛感した。なお、リサイクルでできなかった残り三十%の廃棄物がどのような状態で排出されるのか見せて貰えなかったが、東北地区の管理型処分場に持ち込んで廃棄処分しているとのことだった。

手作業の解体とシュレッダー処理は十年ほど前まで我々同業者が各地域で行っていた方法とまったく変わりない。むしろ当時は再使用できるものや部品は極力生かし輸出できるものは輸出してリサイク

ル率を高め経営していた。しかし、今のように回収や解体のコスト負担を義務づける制度も無く、メーカー責任も問えず、多くの業者が転廃業していった。

Aグループに参加できた既存の業者も極一部の大手問屋で、法的な規制も多く、漸くコストの負担方法が確立されたのに、以前のように地域の回収業者が自由に営業することを禁じる結果となった。

また排出者がコストを負担することで、不法投棄も増え、それは地元自治体の責任で処理しなければならず大きな負担となっている。今後新たに法制化されるパソコンや自動車は、購入時製品価格に追加されることになるようで、消費者には更に紛らわしいリサイクル制度が実施されることとなる。

一部の市民や学識者からも本法の不備が指摘され、NPO団体や家電小売店と回収業者等による新たな制度の立上げも進んでいる。

法律が施行され製造者責任が生じたと言っても、コスト負担が明確になると、リサイクル事業そのものが大企業の手で独占されてしまうことも不可解だが、動脈産業が大量消費を煽る新たなごみ捨て場としてしまうような法律にならないように監視してゆく必要がある。

直言拝聴

「古紙輸出の現状と課題」

関東製紙原料直納商工組合
理事 広報委員長
(株)富澤 代表取締役社長

滝本 義継

進むわが国の古紙余剰

今から5年前、一九九七年私ども古紙業者は余剰する古紙の実態を広く世間の人々に知っていた。そのため「古紙利用促進全国総決起大会」を東京で開催しました。

この催しは「NHK ニュース9」も五分間にわたって放映、それまでどちらかと言えばマイナーな存在であった古紙に陽が当たった瞬間でした。そのせいか九六年までは年率〇・五%に過ぎなかった回収率の伸びが一%を超えるようになり、九七年から二〇〇一年までの五年間で実に九%伸びて六二%になりました。今のトレンドで進むと〇三年には六五%の回収率になると思われます。と、言ってもこれは分母を国内生産量にとつて「見かけ回収率」であつて、産業の空洞化に伴う紙類の付帯輸入を見込んだ消費に対するネット回収率は〇一年で五八%程度と思われまふ。この様な経済環境の変化によつて、わが国の古紙の回収率と利用率の乖離は二千年には僅かに一%であつたものが〇一年には四%と急速に拡大しています。〇二年は五%（一五〇万トン）を上回るのではないのでしょうか。例えば〇一年にパッケージとして我国に入った段ボールは凡そ一〇

億平米、重量にして六五万トンと

いわれています。これは我国段ボール消費の七%に該当する量です。〇一年の段ボールの見かけ回収率は九二%でしたが輸入パッケージ（段箱）を引いたネット回収率は八五%です。理論的には九〇%程度は回収可能といわれています。まだ五%（四〇万トン）は回収余力があります。一方、我国の紙、板紙生産量（消費量ではない）は結果的に二〇〇〇年がピークであつた可能性が高いのです。今後も原紙輸出がない限り生産量の伸びはあまり期待できないと思えます。また、価格との関係で板紙はますます軽量化が進んでゆきます。したがつて板紙原紙古紙の消費は今後も減少傾向をたどるでしょう。洋紙もPC等電子機器の取扱イメージににくい空洞化が進んでいます。結果、我国に製品に付帯して入ってくる紙類は一〇〇万トンに達するものと思われまふ。これらの要因により〇二年には我国古紙輸出量は二〇〇万トンになると思われまふ。

アジア諸国の古紙消費実態

〇一年、我国の古紙輸出は一四六万トンでした。品種別構成比は段ボール三九%、新聞、雑誌四五%

その他十六%でした。輸出国別の構成比は中国四〇%、タイ二四%、台湾十六%、韓国八%その他一二%となつています。なかでも中国の古紙輸入は九六年に一〇〇万トンを超えてから〇一年六四〇万トンと五年間で五倍になった。

〇二年は八〇〇万トンを超えると思われまふ。二〇〇〇年におけるアジアの国々の古紙輸入実績は次のようになっています。中国六四〇万トン（〇一年）、タイ九五万トン、台湾一〇四万トン、韓国一九六万トン、インドネシア二三〇万トン、その他五〇万トン、合計一三一五万トン。以下、国別に古紙消費事情を簡単に記してみまふ。

「中国」

中国の〇一年の紙、板紙消費量は三九〇〇万トンを超えたものと思われまふ。九七年に我国の消費量（三〇〇〇万トン）を超えて年率七%で消費量が伸びています。二〇一五年には八〇〇〇万トンを超えて米国を抜き世界一の紙消費国になると中国関係者は言っています。二〇〇〇年の中国のGDPは一兆ドル（一三〇兆円）で世界第七位、日本は六〇〇兆円（世界第二位）ですが、中国GDPの過去二〇年間の平均伸び率は九・五%とまさに高度成長を続けています。

今後七〇程度の成長を維持するものと思われず。それに伴って紙板紙の設備投資も近年は年間二〇〇〇万トン以上が継続されています。古紙消費も〇一年には二〇〇〇万トン（我国は一七九〇万トン）〇二年には二二五〇万トンになり、内八五〇万トン以上を輸入に頼ることになるでしょう。中国は近い将来一〇〇〇万トンの古紙輸入国になると思います。古紙消費量でも中国は〇一に日本を抜き世界第二位（一位は米国で三六〇〇万トン）の消費国になりました。さて中国はこれから古紙をどこから調達するのでしょうか。従来、米国、ヨーロッパ中心に古紙を輸入していましたがヨーロッパに代わりそうなのが日本です。品質、価格、デリバリーどれをとっても日本の古紙はヨーロッパを凌駕しています。米国は年間一〇〇〇万トンの古紙をメキシコや東南アジア地区に輸出していますから米国が調達先中心になります。先にあげた理由で日本への期待は大きいものがあると思います。

「タイランド」

中国に次いで我国の古紙輸出が期待できるのはタイ国です。タイには現在段ボール古紙が輸出されていますが、メーカーによつては原

料が日本の段ボール主力になっているところもあります。タイの二〇〇〇年の紙、板紙の生産量は二九〇万トン、古紙の消費量は一八六万トン、内、五一％（九五万トン）が輸入古紙です。輸入先は米国が多く、日本からも〇一年には三五万トンを輸入しています。しかしタイは紙、板紙の国内消費のピークが九六年二三〇万トンで二〇〇〇年は二〇〇万トンとまだその水準に回復していないと同時に、生産との差は輸出されています。その意味では九七〇八年のバートツ危機のショックから経済は完全に立ち直っていないとも言えます。日本からの輸出は三〇〇五〇万トンレベルで当分推移するでしょう。原紙の輸出先は中国が大半です。

「台湾」

台湾の製紙産業は今、二つの理由で大きな危機を迎えています。一つは、急激な産業の空洞化で、〇一年の国内産業の空洞化率は二〇産業を中心に実に一七％にもなりました。二つめは環境問題でそれに莫大なコストがかかり、急速に競争力を無くしています。これらにより、台湾の製紙メーカーは板紙をメインに中国への直接投資を積極的に行っています。紙、板紙の生産量もこの一〇年間ほと

んど変化がありません。古紙の消費量も同じく横這いに推移しています。しかし国内回収量はこの一〇年間で七〇八〇万トン伸びて、二〇〇〇年は約三〇〇万トンの古紙を回収しています。この様な状況ですから、台湾の古紙輸入は九十三〇四年（二七〇〇八〇万トン）をピークに減少傾向にあります。因みに、二〇〇〇年の古紙輸入量は一〇〇万トンでした。

ところで、台湾台北市は二〇〇〇年七月から可燃ごみの収集を夜間（一八時〜二二時）に変更しました。また、同時に家庭の資源ごみの回収（東京ルール1台北版）も始め、それなりの効果を上げているようです。〇一年の我国の台湾への古紙輸出量は二十三万トン（構成比一六％）でした。

「韓国」

韓国は一九九八年の「IMF」ショックにより製紙産業は軒並み経営不振に陥り、大手メーカーは外資に渡り、中小メーカーは倒産の嵐に見舞われました。しかし、韓国は中国や日本に次ぐアジアの製紙大国ですが、ここ五年間は生産量の三〇％以上が輸出されています。紙、板紙の生産量及び消費量は九九年以降着実に伸び二〇〇〇年は過去最高の生産九三〇万トン、消

費七二〇万トンを記録しました。二〇〇〇年シヨックから立ち直りの早さを物語っています。古紙の回収も順調に伸びて二〇〇〇年には五〇〇万トンの古紙が回収されています。古紙の輸入量も九九年に二〇〇万トンと過去最高を記録しました。日本からの古紙輸出は新聞、雑誌が中心でしたが、今後はパルプ代替古紙が期待できそうです。韓国は一人当たり紙消費量が一五〇キログラム（二〇〇〇年）と日本（二四〇キログラム）に比較してまだ少なく、まだまだ伸びるのではないのでしょうか。

「おわりに」

以上、アジアの古紙消費主要国の事情を見てまいりましたが、〇二年は日本を除く東アジア、東南アジア全域で四二〇〇万トンの古紙が必要になります。その内輸入は一五〇〇万トンになるでしょう。世界の古紙消費量は一五〇〇万トンですから実に三〇％の古紙を消費することになります。日本を加えると四〇％の古紙をアジア地域は消費することになります。このように古紙が国際商品化するのとにより古紙価格も国際的に有力な戦略物資化も同時に進むでしょう。

民間の活力を生かして

総合リサイクル施設の整備を

港区の港資源化センターを視察して

去る四月四日(木)午前十時より、東京・港区の港資源化センターを視察した。

最初に、港区のごみ・資源物の収集処理の仕組みと港資源化センターの概要について、ビデオの放映と港区環境保全部清掃課の担当者からの説明があった。

まず、港区では、可燃ごみ・不燃ごみ・資源物・粗大ごみをそれぞれ週一回収集し、次のように処理をしている。

①可燃ごみは、港資源化センターに隣接する清掃工場で燃やした後、灰を中央防波堤の埋立処分場に運んでいる。

②不燃ごみは、一旦芝浦清掃作業所に集められ、船で中央防波堤の埋立処分場に運んで処理している。

③粗大ごみは、区の中継所で破碎処理し、資源物になるものとならないものを選別すること。そして、資源として使えるものは再資源化し、使えないものは埋立処分場に運んで埋立処理をしている。

④資源物のうち、古紙・びん・缶は区内の一般の集積所で、またペットボトルは、スーパードット・コンビニ

ニ・酒店などの販売店で収集し、港資源化センターに運ばれて選別・中間処理され、再生工場へ運ばれる。

次に、港資源化センターは、平成十二年四月に稼働を開始した港区単独の資源物選別・中間処理施設で、地元の港区リサイクル事業協同組合が港区の委託を請け負って運営しており、現在作業員一六名で操業している。

当初は古紙・びん・缶の選別・中間処理を行っていたが、平成十三年五月からペットボトルの処理も始めたとのことだった。



港資源化センターでの見学風景

現在、一日の入荷量は、古紙が約三六トン、びん・缶が約十一トン、ペットボトルが約八〇〇〜一〇〇〇kgだが、最近の傾向としては、古紙とアルミ缶が微増となつているのに対し、スチール缶とびんは減少しているらしい。

また、現在一つの地方自治体が、独自にこのような規模の大きい総合リサイクル施設を所有している例は少なく、東京二三区内でも港区を含めて四ヶ所しかないと担当者が説明していた。

説明終了後、実際に資源化センター内の設備や作業風景を見学した。資源化センターの建物は、建築面積が約二、一七六㎡、延床面積が約三、六〇〇㎡(作業員の方々の休憩室を含む)という規模のものであった。

また、選別処理方法は、資源物をコンベアーに送り込む前に、ピットに入れた段階で残渣などを選別してしまい、びんの色分けやスチール缶・アルミ缶の区別などは、コンベアー上で自動で行えるような設備になっていた。

他方、選別・中間処理能力は、缶が約一・七トン/h、びんが約一トン/h、ペットボトルが約〇・三トン/h、古紙が約七トン/hということだった。

今回、港資源化センターを見学して、我々民間業者も、率先してこのような独自の総合リサイクル施設を所有して、資源物の円滑な受け入れ体制を出来るだけ早く整備していくことが、将来における資源循環型社会の構築に向けて必要なのではないだろうかと思感じた。(柿崎正則)

効率的な家電リサイクルの方法を探る必要あり

廃家電処理工場・東京エコリサイクル(株)を見学して

●家電リサイクル法と関連企業の対応

平成十三年四月に施行された家電リサイクル法に対応し、家電業界は、Aグループ(松下電器、東芝、日本ビクター、ダイキン、ゼ

ネラル、サムスン、コロナ、東京ガス)、Bグループ(日立、三菱電機、ソニー、三洋電機、富士通ゼネラル、アイワ、パイオニア、ノーリツ、リンナイ、フナイ、ダイウ)に分かれ、廃家電四品の処理



廃家電処理工場・東京エコリサイクル(株)

を行っている。

A、Bグループの相違点は、Aグループが処理設備に自前の処理場を作らず、当面の資金投下を最小にして、既存の業者を使ったりサイクルを進める方式に対し、Bグループは自前の処理場を作り、グループ各社の廃家電を解体、リサイクルする方式をとっている。

●東京エコリサイクル(株)の概要

去る四月四日(木)、東京エコリサイクル(株)(江東区若洲三八番地 TEL:03-3522-6690)を、当組合の紺野理事長以下一八名で訪問した。

東京エコリサイクル(株)は、Bグループの処理場として、家電リサイクル法に先立ち、平成十一年十

二月に設立された。資本金三億円、敷地面積は、七、六〇〇m²、土地・建物・処理場設備に十数億円の資金投下をしている。

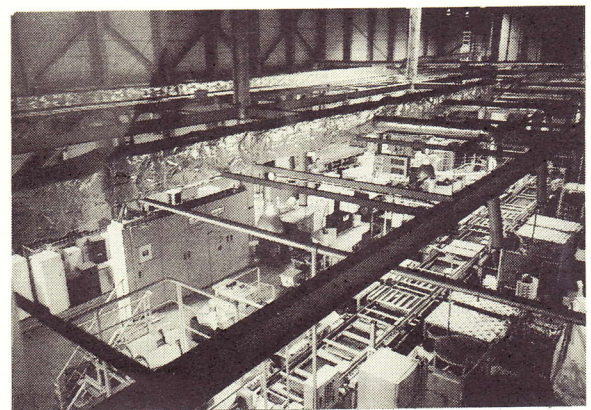
ここでの処理は、部品の再利用ではなく、資源の再利用が目的で、取り外したモーター、電子部品も全て分解処理されている。

●担当者の桑原氏から業務内容の説明

一年間に排出される廃家電は、約一、八〇〇万台で、その内八〇%を洗濯機、テレビ、エアコン、冷蔵庫の家電四品が占めている。この処理場では、四品を年間四〇万台処理する予定でスタートし、初年度の平成十三年度実績は二七万台で、まだ目標処理台数には到達していない。

リサイクル率は、当初五〇〜六〇%を目標としたが、現在では当初難しかったフロン11、フロン12の回収も出来るようになり、既に七〇%に達している(リサイクル率≡有価販売の重量/全処理重量)。

残り三〇%はプラスチック、ウレタン類で、これが産業廃棄物になっている。経営的には現在赤字で、後三〜四年間は赤字体質が続く見込みである。



工場内での作業の様子

処理台数の増加とリサイクル率が無いと、黒字化は難しい。

消費者負担となる処理料は、テレビ(ブラウン管式)・・・二、七〇〇円、冷蔵庫・・・四、六〇〇円、洗濯機・・・二、四〇〇円、エアコン・・・三、五〇〇円となっており、この他に収集運搬費用が必要である。

●説明終了後、工場見学

敷地一杯に建てられた工場はコンパクトに作られ、一階で受け入れた廃家電はコンベアーで三階の処理ラインに送られる。

工場を幅一杯に六本の作業ラインが組み立てられており、解体スポットでは、一人が一つの家電を全てパラス方式がとられていた。

分解された躯体は、二階部分を通る処理コンベアーへ投下し、粉碎機へと運ばれ、モーター、熱交換機、配線コードなどは纏めて、積みまされたり、袋に入れるなどの仕分けがされていた。

洗濯機の解体では、塩水抜きの様子を見たが、洗濯機の中に、大量の塩水を入れて作っていることは今まで知らなかったため、勉強になった。

●見学所感

Bグループが廃家電リサイクルに立ち上げた新工場で、リサイクルの最先端を行く設備であるが、担当の方から説明があった前処理と呼んでいる分解作業に、この工場の三分の二の労力が使われており、人力に頼らざるをえないリサイクルの現状を再認識した。大手家電メーカーが力を入れて設備し、処理料を計算して作った工場でも採算をとるのは中々大変な様子で、独自にこのような処理場を作った場合には、行政の補助なしでは難しいものになると感じた。

家電メーカーでは、Aグループ、Bグループのどちらのやり方がリサイクルの実をあげ、製品コストを引き下げ、競争力を得るが、興味をもって見てゆきたい。

(長沢常憲)

組合活動に若手の力を積極的に登用するため

『東多摩再資協・青年部』が正式に発足

今まで当組合には正式な青年部は存在せず、組合員の後継者を暫定的に青年部員と称していたに過ぎませんでした。今年度より正式に青年部として発足させることになりました。

理事会で青年部を作るように要請を受けた土井健一郎氏の呼び掛けに8名の青年部員が結集しました。

当組合の広報委員活動及び東資協(東京都資源回収事業協同組合)の青年部員としての活動等の経験豊富な土井健一郎氏を全員一致で青年部長として擁立し、青年部はスタートしました。

新青年部としては組合の各種イベント・会合のお手伝い、広報委員会への参加、東資協青年部との交流、勉強会や見学会の企画・開催及び参加を通して業界の次世代を担う人材の育成、業界の活性化を図っていききたいと考えております。

今後青年部員プロフィールや青年部活動をヴィーナス通信で紹介していく予定です。

(広報担当 紺野 琢生)

新青年部長挨拶

青年部長 土井 健一郎

先日の理事会で、理事長から東多摩にも人材がいるのだから「青年部を作りなさい」との一言で、青年部を設立すると言う大変な役目を命ぜられました。設立にあたっては、東資協青年部員の紺野琢生君の協力により各組合員の、後継者に声を掛け八名の青年部員が誕生しました。

一番初めに呼びかけをしただけなのに、初代青年部長になつてしまいました。元々実力があつての青年部長ではないので、八名の協力なくしては青年部の運営はできません。

私が青年部長としてすべき事は、若い部員の話を積極的に取り入れ青年部活動を円滑に行えるテーブルを作つて行く事だと思つていきます。

東資協青年部での経験も生かしながら、この新しい東多摩再資協青年部を、新しい仲間と共に有意義な集まりとして行きたいと思つます。

最後に組合理事の皆様には、何かとご迷惑をお掛けすると思ひますが、よろしくご指導のほどお願いいたします。

東資協青年部より祝辞

東資協青年部長 松本貞行

東多摩再資協青年部設立おめでとうございます。

そして土井健一郎さん、部長就任おめでとうございます。

地元の組合の青年部というのは、普段仕事で接している住民の方々の顔の見える付き合いを中心に地域に密着した活動が多くなるかと思ひます。

地域のイベントへの参加、他業種の青年部と連携した町づくり会議、ボランティア活動など、さまざまな活動をおし地域の中で我々再生資源業界をアピールするとても大事な役割があると思ひます。

東資協青年部員もそれぞれの地元で地域と密着した青年部活動を行なっています。貴青年部とも今後情報交換や青年部間の交流など、

協力していければと思ひます。

青年部活動は若い人がいろいろ意見を交わし、そして何より本人たちが楽しむというのが一番のエネルギーになると思ひますので、活気ある青年部を目指しがんばってください。

(新青年部)

メンバー紹介

(部長)

土井健一郎 (有)土井商店

(部員)

奥山慎吾 (奥山商店(株))

古川賢一 (有)古川ウエス商会

川島行雄 (川島商店)

藤野理広 (有)フジノ

紺野琢生 (株)三栄サービス

土井三幸 (有)土井商店

白戸亜矢子 (株)久米川紙業

(顧問)

藤本達也 (有)藤本チエーン

(弁護士)

(青年部担当理事)

吉浦高志 (株)久米川紙業

小畑和夫 (小畑商店)

(会計・事務)

柿崎正則 (組合事務局)

☆ご存知ですか☆

二〇〇一年の

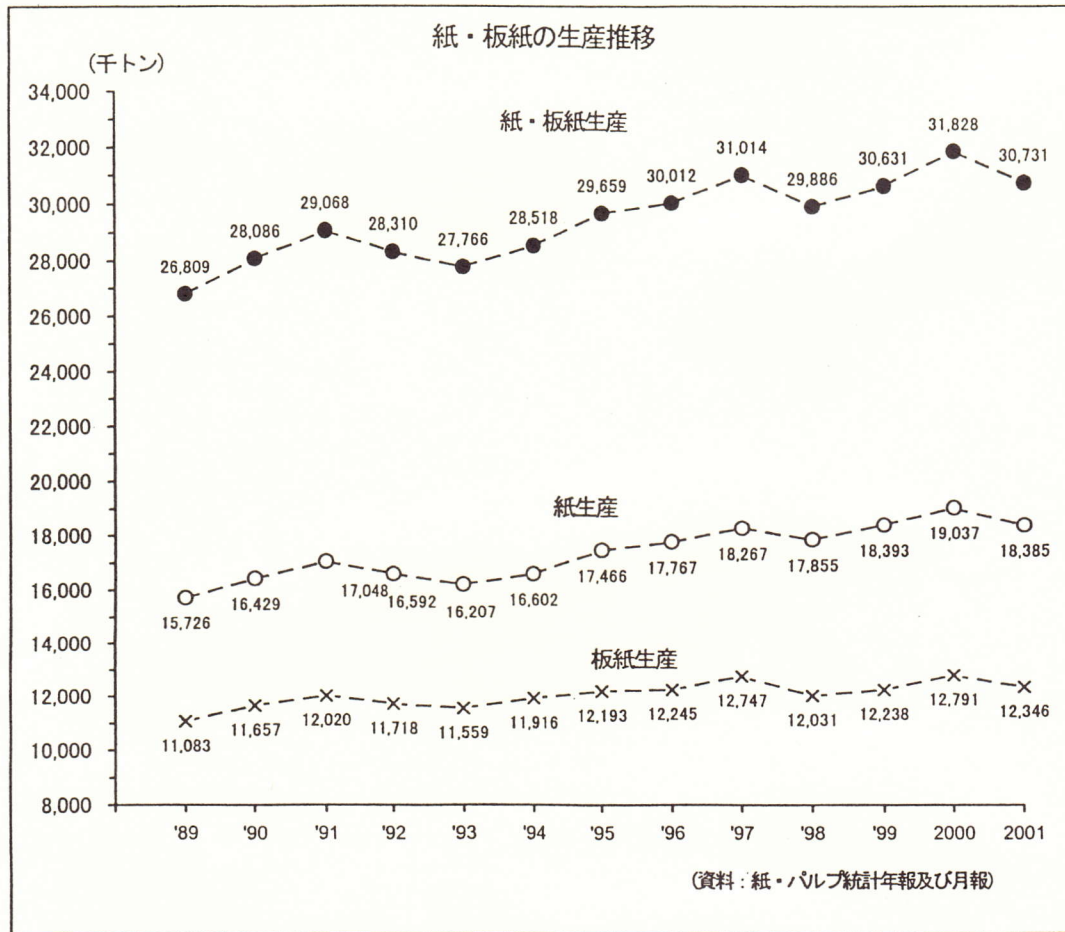
古紙統計

二〇〇一年の紙・板紙の生産量は、三、〇七三万トン（表―1）で、その原料となる古紙は一、七九万トン（表―2）使われた。古紙の回収率・利用率も毎年順調に伸びている（表―3）。

特に回収率は驚異的な伸びを示した。

回収率飛躍の主な原因は、清掃行政によるごみ減量運動とリサイクル事業支援の全国的拡大、企業の小型焼却炉使用禁止やISO14001取得などによる事業系古紙の資源化増などが考えられる。

さらに昨年の特筆すべき数値は、古紙の輸出量（表―4）で、我が国の古紙が、中国などアジア各国に一四六万トン以上放出したことになる、本年は二百万トン近くまで輸出されるのではと言われている。輸出と言う古紙の新たな受け皿を拡大できたことも、古紙回収率を伸ばす大きな原因になっている。さて、これらの統計値をさらに分析してみると色々と不思議な事実が見えてくる。



(表―1)

1. 紙・板紙の原料Ⅱ 古紙+パルプ+

(表―2)の古紙とパルプの合計が、(表―1)の紙・板紙の生産量より少ないのは不思議だ。しかもこの現象は、一九九五年から連続して続いている。

また古紙には歩留まりがあり、一〇〜一五%のロスが出る。となると、二百万トンからの製

紙原料の不足分は何だろう。紙製品表面の化粧や、加工剤(酸化デンプン・炭酸カルシウム・タルク・カオリン・サイズ剤・紙力増強剤)などの薬品の量が、なんと二百数十万トン使われている。

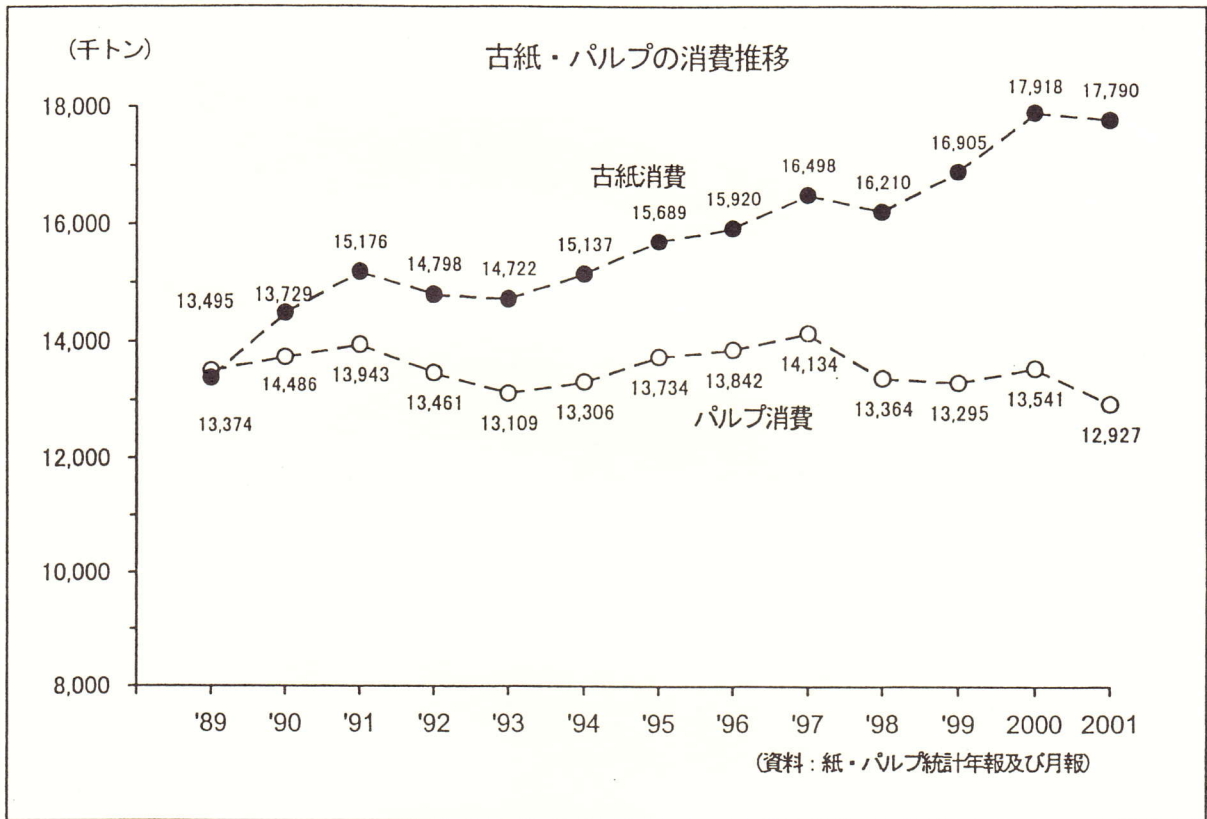
この薬品の量が、紙・板紙の生産量に加味されているなら、当然計算式の中にも原料として入れなければ正確な統計は出ないし、回収率も利用率も違ってくるはずである。パルプや古紙の使用料は、正確なのだろうか。どちらも需要者(製紙会社)側の自己申告によるもので、供給側(古紙業界)にその数値をチェックする機能がないというのもお粗末な話だ。

せめて業者所有の在庫量ぐらいは把握できる全国ネット作りを急がなければ、古紙業界が製紙メーカーと議論することも出来ないのではと思う。

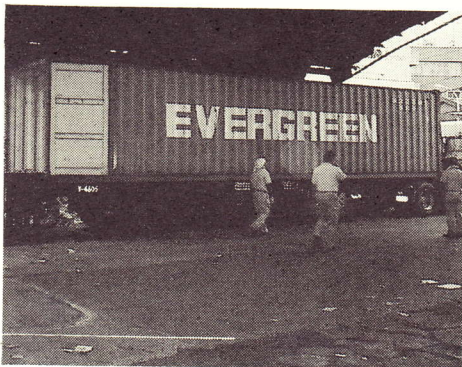
2. 古紙回収率と利用率の計算法

古紙回収率・利用率の計算式(表1-3)を見ると、先ず分母が違うがその理由がよく解らない。回収率の分母である紙・板紙消費量に前述の薬品量が加わっているとしたら、利用率の分母にはなぜ加えないのかと言う疑問もある。パルプや薬品の利用率も算出してみるとよく解る。

古紙回収率も、メーカー入荷量と輸出入量で算出している。古紙業界が実際に回収した量ではなく、製紙メーカーの仕入量(必要とする量)と貿易統計で計算される。昨年の輸出が前年並みだったら、回収率は五八%にしかない。つまり、回収率もメーカーの注文や輸出などの受け皿次第で増減し、実際に回収した量や市中在庫を無視した計算法になっている。昨年は製紙業界が、一斉に操業短縮して注文量をカットしてきたが、その対応策として古紙業者自身が中国を中心に大量の輸出を実施することができた。しかし、景気回復などで国内需要が増えればメーカーは、古紙業者に色々な圧力をかけて輸出にプレキをかけようとする。従って日本の古紙業者は、余ったときしか輸出をしないと信用が低かった。



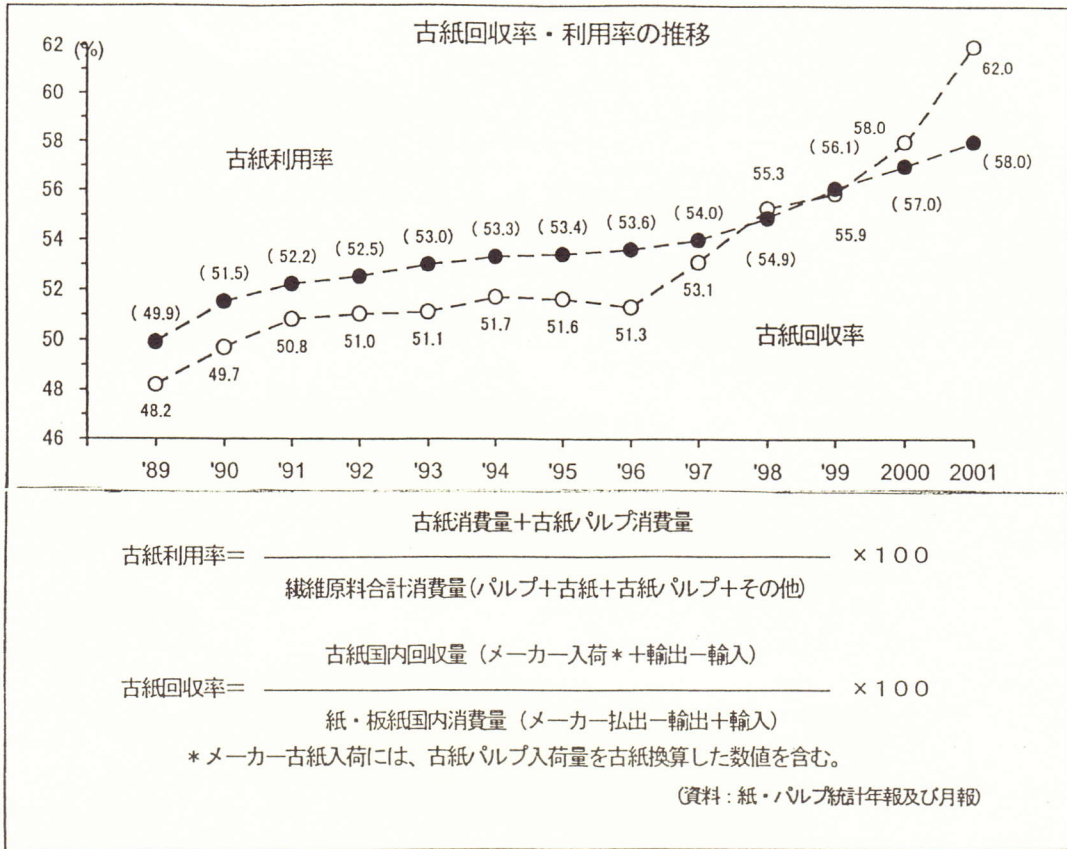
(表1-2)



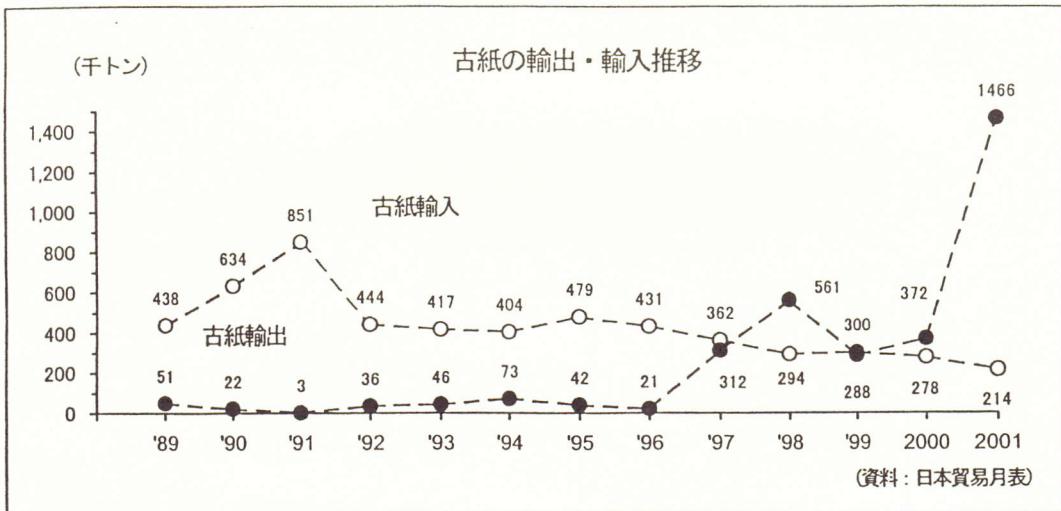
古紙輸出用のコンテナ

古紙業界が輸出を自由に出来なければ、如何に回収能力があっても古紙回収量を増やすことが出来ない所以でもあった。これからは回収できる古紙は100%回収し、世界に資源を還元する目的で地球規模の循環ルートを大切にする業界行動が不可欠だ。後述するが紙や古紙として輸出入統計に加算されないものもある。また、古紙混入率の低い用紙類を海外生産して輸入し、混入率の高い紙類を国内で作れば古紙利用率が急上昇する。国内の低品質古紙を輸出して、パルプ代替の上質古紙を大量輸入しても利用率が簡単になる。利用率を60%にする「リサイクル60計画」は国内古紙を利用してという条件を付けなければ意味の無い数値になる。

(表-3)



(表-4)



3. 新聞古紙回収率一七七%? 段ボール古紙回収率 九七%?

二〇〇一年の古紙回収率を品目別に見ると、新聞古紙が百分を大幅に超えていると発表している。新聞用紙生産量を分母にしているが、分子の古紙回収量には大量の折込チラシが加わるからだ。新聞紙だけでは八〇%以下にしかない。

段ボールの回収率も異常に高い。大量に輸入される食料・衣料・家電製品・日用雑貨など、殆ど段ボール箱に入ってくるが、これらを回収すれば回収量に加算される。約六五万トン程度と推定されるが輸入古紙としてカウントされないため分母には入らない。

その他にも海外で生産し輸入しているパソコンなどの電子機器に付帯する取扱説明書なども輸入用紙にはカウントされないが、いずれ国内古紙として回収される。

このように大きな隠れた数値を加味しなかったり、逆に付け足したりしたりサイクル統計も多い。勿論、同じ基準で算出した数値は年次や海外との比較・目標として貴重なものであることを否定するものではない。ただ見かけだけの数値に惑わされない分析も必要ではと考察してみた。(T・K)

古紙リサイクルの輪を着実に広げるために

古紙ネット製作のビデオがいに完成！

去る四月二十五日(木)午後七時より、東京・品川の「きゅりあん(品川区立総合区民会館)」にて、この度完成した古紙問題市民行動ネットワーク(代表・中村正子氏)製作のビデオ『まわれ！古紙リサイクル』持続可能な循環システムをめざして』の試写会が行われた。

このビデオは、市民の眼を通して製作されたもので、古紙リサイクルの厳しい現状の紹介と、古紙リサイクルの輪を円滑にまわすために乗り越えなければならぬ課題を提示しているものである。

また、ビデオの中では、当組合の紺野理事長や吉浦広報委員長が、行政回収で集められてくる古紙の中に入っている禁忌品や、産業古紙の実態などについて、熱心に説明している。

このビデオは全体として、持続可能な古紙リサイクルを中心に、資源循環型社会の仕組みをどのように作ってあげればいいのか、その手がかりを教えてください、市民の皆様にもビデオを購入していただき、リサイクルの将来を考え

る上で活用してみたいかがでしょうか。尚、ビデオの購入に関するお問い合わせ先は次の通り。

〔問い合わせ先〕

古紙問題市民行動ネットワーク

(TEL&FAX)

03-3713-3172

(ビデオ代金)

(一般価格)五千元(税込)

四月より小平市で、プラスチック容器の一般回収を開始

今年四月より、小平市でプラスチック容器の一般回収が開始された。市では、過去二年間テストケースとして、スーパーマーケットや公共施設などでの拠点回収を行っていたが、今回、一般家庭を対象にした回収を本格的に導入することになった。

資源として出せるプラスチック容器は、硬質プラスチックで汚れの無いもの(洗剤などのボトル類、卵のパック、豆腐の容器、プラスチックの中敷など)である。

反対に、包装用フィルムは燃えるごみに、色つきトレイ・弁当の容器・カップ類・ソースの容器等汚れのひどいものは、いずれも燃

えないごみに出さなくてはならない。

また、プラスチックの正しい出し方は、「①中身を空にする②ボトルはよくすすぎ、ふたをはずして乾かす③ペットボトルなどは別に、プラスチックだけを同じ袋に入れて出す」等となっている。

安全を最優先して信頼の確保を！

安全講習会が実施される

去る三月九日(土)午後四時より、組合員及び組合従業員五四名を対象に安全講習会を行った。

講習会では、現在の厳しい経済環境が、労働者に対し多大なる雇用不安をもたらしている情勢を説明し、当組合としては、このような現況に対して引き続き雇用の確保に最優先で取り組む姿勢を示した。

また、当組合が雇用を確実に確保するためには、組合員・組合従業員にも、市や市民から大いに信頼されるように、仕事を安全に行う義務があると説明した。

そして、服務規律を定めて、違反した場合には罰則を適用するなど就業態度の引き締めを図り、合わせて、車両関係や各種資源物選別作業時の安全要項を再確認した。

地元・5市で集められた雑古紙を100%使用！

漂白の際には化学薬品を一切使わず！

地球環境とお尻にやさしい！

トイレットペーパー

『ブーメラン』(1ロール100m巻、中芯あり)

1ケース100個入りで4,000円(配達料、消費税込)

現在、東村山市、西東京市などの小中学校・公共施設で本格採用中！

ご注文は、当組合の電話・FAX・Eメールで受け付けております。

〔注文先〕東多摩再資源化事業協同組合

電話・FAX:042-395-9788 Eメール:ri3196@oak.ocn.ne.jp

私の履歴書

小畑商店 社長

小畑 和夫

昭和三三年、私が七歳の時、清瀬元町のきよせの森総合病院（前の武谷病院）裏に東京日暮里から引越してきました。母は日暮里でマルモ商店という古紙問屋の内勤をしていて、父との結婚を期に独立し清瀬に店を構えたのです。

当時店には何人かの買出しさんがいて、まだリヤカーで古紙や古布、びん、鉄などを集収しており、朝仕事に出る前、店から一、〇〇〇円位お金を借りそのお金で自分のお得意様のいる地域を回って資源物を買集めてくるのです。リヤカーで回るので担当する地域は限られていて買出しさんの間で暗黙の了解があったようです。

清瀬は西武線をはさんで北側は農地が多く、南側は武蔵野の自然と雑木林が多く残っていて結核の療養所や病院が点在していました。その中で友達と木登りや昆虫採集、栗拾い、少し遠出をして水のきれいだつた柳瀬川でよく遊びました。

そのころから東京のベットタウンとして徐々に団地や住宅が建ち

始め、昭和四一年に現在の清瀬市竹丘に店を移転しました。移転した時周りは病院と雑木林ばかりで地主さんに好きなだけ場所を使つて良いといわれ一〇〇坪程借りたのですが、後でもっと借りておけばよかつたかと母がよくこぼしていたのを覚えています。

竹丘に移転してから父も必要に迫られ、ようやく運転免許を取りましたが、年齢がもう六〇を超えていたのであまり運転は好きではなかつたようでした。高校を卒業したら店を手伝つてくれと両親から言われ昭和四三年に卒業してすぐに運転免許を取り、すんなりとこの仕事にはいりました。

当時は中野にあつた製紙問屋まで古紙を納めていたが時間が往復三時間以上かかるため昭和五〇年ころから東久留米にある藤本チェーンに納めるようになり、そのころから組合の会合に出るようになり組合員の皆さんとも知り合うようになりました。

仕事も今と違って古紙類、古布は勿論のことですが鉄屑（家電製品）びん、などもまだ商売として成り立っていました。あのころの家電製品は、ほとんど鉄や非鉄金属でできており雨天で外周りができなかつたりすると冷蔵庫や洗

濯機、テレビなどを分解し、銅・アルミなどをとつたものでした。びんもあまり形の変つたもの以外は生きびんとして採算のとれる価格で売れたものでした。

昭和五〇年後半から六〇年にかけて店の周辺も雑木林がすっかりなくなつて住宅になり、病院の敷地だつたところも道路が整備され大学や公園が変わつてゆきました。清瀬は団地が多く集団回収で回るようになったのも丁度このころでした。また自治会、子供会、学校の父母会の集団回収も頻繁になり、それなりに忙しかつたと思います。

平成に入つたころから資源物の価格が低迷するようになり商売も厳しい難しい時代になってきました。平成五年、組合で作業委託を受けた小平リサイクルセンターに担当理事として入るようになり、平成七年に柳泉園リサイクルセンターに移り、現在に至っています。

また個人的には長距離走に凝り各地のマラソン大会によく出場していました。中でも茨城県の勝田マラソンで出した二時間四三分一九秒は私の自慢です。

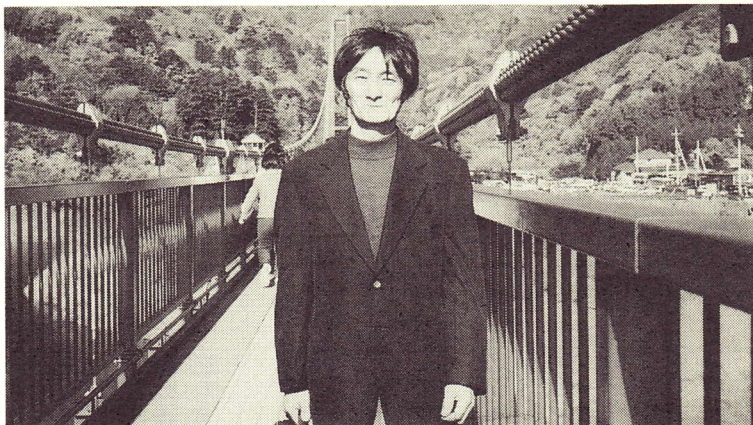
一昨年、韓国視察旅行の折、早朝市内をジョギングしていて、大統領府に入り込み、ピストルを持

つた警備員に止められたときはギョウテンしました。

大まかな私の履歴書で誠に申し訳ありません。

幸いに健康に恵まれ元気に働いております。

これからも組合の仕事や集団回収などで、皆様にお世話になると思います。宜しくお願い致します。



旅行先の橋の上にて

資源回収員安全ベスト

着用を心掛ける

当組合では東村山市、東久留米市、西東京市の各市の資源回収を行っている組合員に安全ベストの着用を心掛けることにした。回収作業中の交通事故防止及び横取り行為者との区別をつけるとともに、資源回収に携わる回収員としての意識の向上を目的とする。



着用が決まった安全ベスト

行事・行動

【一月】

- 四日.. 仕事はじめ
- 一〇日.. 中小企業組合中央会新年会・古紙センター新年会
- .. 清瀬市廃棄物減量審
- 一日.. 定例理事会
- 一五日.. 都環境衛生協会新年会
- 一七日.. 西東京市廃棄物減量審

二六日.. 組合新年会

二八日.. 広報委員会

三一日.. 古紙センター・業務委

【二月】

二日.. 日資連・理事会

四日.. 清瀬市廃棄物減量審

五日.. 段ボールR協議会

.. 古紙循環プロジェクト

九日.. 多摩R団連・幹事会

一二日.. 定例理事会

一四日.. 広報委員会

一八日.. 東京R団連・幹事会

二〇日.. ストックヤード安全会議

二五日.. 清瀬市廃棄物減量審

【三月】

六日.. 広報委員会

九日.. 組合RC安全講習会

一〇日.. 関資連・理事会

一一日.. 定例理事会

一四日.. 古紙C・理事会業務委

十五日.. 清瀬市廃棄物減量審

.. ストックヤード安全会議

一八日.. 東京R団連・幹事会

二八日.. 新聞リサイクル会議

.. 広報委員会

二九日.. 段ボールR協議会

【四月】

四日.. 港資源化センター・東京

.. エコリサイクル(株)視察

一〇日.. 古紙循環プロジェクト

一一日.. 定例理事会

一五日.. 東京R団連・幹事会

一六日.. 広報委員会

一九日.. 中小企業中央会評議員会

.. 多摩R団連・幹事会

二〇日.. 日資連・理事会

二五日.. 古紙センター・業務委

二六日.. 臨時理事会

三〇日.. 広報委員会

余りにも安すぎる古紙価格！

今、日本の古紙価格が世界一安い。特に、この十年間の値下げは、情け容赦が無い。

一九九三年と二〇〇二年の古紙価格を、メーカー工場着値(kg当り)と比較してみると、新聞古紙は一五円から九円(下落率40%)・段ボールは一六円が六円(同63%)・雑誌古紙は一〇円が五・五円(同45%)に暴落している。この下落率は、日本経済新聞が取り扱っている商品市況の中でも、ワースト1である。

タダで回収し、厳しい選別・プレス加工して最高品質の製紙原料にし、製紙工場に再びお届けしたら一円も残らないと言う価格だ。製紙業界は、原料の六〇%にあたる古紙に対する感謝の力ケラも感じていないのか。それに、自分達で作る紙製品に対する自身も誇りも持ち合わせていないのか。何故ならこの一〇年間で製紙各社は、

編集後記

今号に御寄稿くださいました滝本様ありがとうございます。我が国の古紙輸出の現状とアジア各国の古紙消費事情がよく解り、大変参考になりました。

今後、当組合もタイランドや台湾などのアジア諸国を更に視察調査して、小紙でのご報告できればと考えています。

各国で官・民・学がどのように連携してリサイクルに取り組んでいるか、興味深いものがあります。まもなく、日韓協同主催のワールドカップがはじまります。

国によってはオリンピック以上のファイバーが予想されます。日本イレブンが決勝トーナメントに勝ち進み、停滞気味の我が国の景気のカンフル剤になればと祈ります。

(吉浦高志)